



Title	北海道大学附属図書館報「榆蔭」
Citation	, 10, 1[77]-6[82]
Issue Date	1968-07-30
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/66834
Type	periodical
Note	Vol.2 No.4
File Information	yuin10.pdf



[Instructions for use](#)



図 書 館 雑 感

農学部教授 渡 辺 千 尚

西洋の科学が導入されて以来、わが国の学問の発展はまことにめざましいものがある。しかし博物館と図書館が欧米に比べて著しく劣っていることは大きな欠陥で、ために学術並びに教育の進展を阻害していることは識者の均しく認めているところである。

わが国では博物館といえは古色蒼然として人跡稀なところと相場がきまり、展示品を十年一日の如く陳列し、また図書館は通俗な書物を並べ、ただ学生の読書室と化している場合が少なくない。展示室や読書室は必要欠くことのできぬものではあるが、氷山の一角に過ぎなく、ほかにそれぞれの使命を遂行するための施設と円滑な運営があつてはじめて、完備した博物館や図書館といふことができる。果して完備した博物館や図書館がわが国に見出されるであろうか。とくに国立や大学の図書館が現在のような低調さでは、当分その実現は望むべくもない。

先年昆虫研究のためロンドンの British Museum (Nat. Hist.) の客となつたことがある。研究に必要な文献を伝票に記入して係員に提出すれば、同館に所蔵していない文献はただちに Science Library から取り寄せてくれる。このようにして座りながらにして、文献を迅速に見ることができ、仕事のはかどることは驚くばかりであつた。実際に研究者に迅速且容易に文献を提供できるためには完備した図書館があつてはじめて可能である。

昨今わが北大の中央図書館は教養部の学生図書室の増設や、人文系の図書施設などに重点を置くことを余儀なくされているのが現状である。これでは大学図書館の眞の使命を果すにはほど遠いといわなければならない。最近医学図書館設立の構想を聞くが、当然のことといわなければならない。ただし医学関係のみではなく、他の部門、特に自然系の完備した専門の図書館を設立しなければ、日進月歩の世界研究陣に伍してゆくのは容易なことではない。

戦後図書閲覧者の書物の取扱いがきわめて粗雑になつたことは寒心に堪えないことである。借出した学術雑誌をよごすのはまだしも、一部を切り取る者さえあつて、公德心は地に落ちた感が深い。数年前アメリカの医学図書館長が来学したことがあつた。この女性の館長は長年医学の研究に精進した医学図書に高い見識の持主であつた。たまたま懇談の席上で、アメリカにおける図書閲覧者のことに及んだ際、同女史は「アメリカでは幼少のころから図書館教育が徹底しているので、図書館の書物を粗雑にするものは一人もない」と誇らしげに語つた。わが国の現状を顧みて、私は思わず赤面するとともに、人類文化の遺産である図書の重要性と図書館の重大な使命を幼少から教育する必要を痛感した。

◆ 会 議

第31回 図書館委員会

<と き 昭和43年5月29日(水)>

<と ころ 附属図書館会議室>

1. 教養分館について、一昭和44年度概算要求につき館長より説明、次いで教養部北村委員より資料“教養部図書室の現状と改善計画”をもとに説明があったのちこの計画に基づく概算要求を行なうことが了承された。
2. 本学教官が出版した著作物を本館にご寄贈願いたいという本館側の希望について館長よりその主旨を説明し、各委員の了承を得た、これ等の著作物は本館開架閲覧室に出され閲覧に供されることになっている。

第32回 図書館委員会

<と き 昭和43年6月26日(水)>

<と ころ 附属図書館会議室>

1. 閲覧個室の割当について、一去る3月の委員会にて審議された閲覧個室のうち第2種につき、利用期間満了に伴う、利用者の選考が行なわれた、今回は第3種(3室)については利用状況によりこのうちの2室を第2種に振り替えることとし、第2種の計8室、利用者24名を決定した。
2. 昭和43年度本館予算について
事務部長より配布資料「昭和43年度附属図書館予算配当額」について説明があり本年度の増額分については図書購入費に充てることにした。
3. その他、
国立大学図書館協議会の発足について館長より報告があった。

附属図書館語学演習室

外国語の習得において、言語が本質的に「音」である点から、聴覚教材の利用が多大の効果をあげ得ることは、すでに実証済みのところであり、特に聴覚教材の利用に便利な録音テープ及びテープレコーダーを活用する語学演習室(Language Laboratory, 以下 L.L. と略称する)は教育機関を中心として年とともに普及し、現在では大学はもとより、高校、中学、さらに小学校にまで及ぼうとしている。

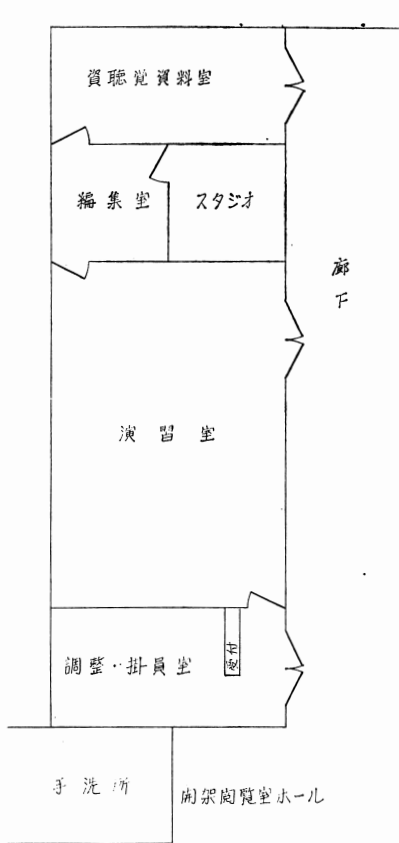
しかし既設の L.L. 設置校においては、その大部分が L.L. を授業に使用することを目的としているため、L.L. の利用には一定の時間割が組まれており、わずかにその空時間を利用して自習用に当てているのが現状のようである。したがって授業で行なわれる外国語はもとより、第2、第3……の外国語の習得を L.L. を利用して自習しようと志す希望者の多い大学の場合にあっては、希望する教材を何時でも、また何度でも自由に自習できるライブラリー方式の L.L. 設置が望まれるところである。

本館ではこの点に着目して、38年10月外国語の自習を目的とするライブラリー方式の L.L. の設置に踏切った。しかし38年といえば現在の新館が完成する前であり、L.L. 設置とは云っても、わずかに家庭用のテープレコーダー3台を取り付けたブースが3席設けてあるだけの臨時的 L.L. でしかなかった。新館の完成に伴い、演習用ブース20席を収容する L.L. 専用の部屋が二階開架閲覧室の北西隣りの現在位置にできた。しかし予算の関係から、ブーステープレコーダーをはじめ調整卓、録音編集機等の設置が遅れていたが、本年3月それらの機器の設置を完了した。

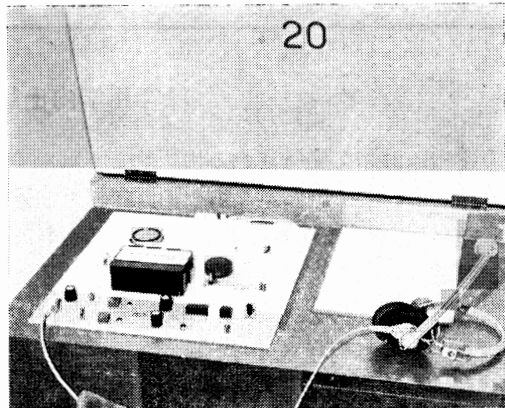
本館の L.L. 関係の部屋は20ブースを収容する演習室を中心にして、調整・掛員室、録音編集室、録音スタジオ、視聴覚資料室からなり、演習室、調整・掛員室、録音編集室、録音スタジオは防音と音響効果を考えて床下および壁には吸音材をつめ、床にはフローアーマットを敷き、壁および天井には穴あきボードを張ってある。各ブースには2チャンネル3モーターのブーステープレコーダーが設置されており、調整卓からは各ブースの練習状況をモニターでき、また各ブースとの通話が可能で、その外に4台のマスターテープレコーダー

を使って各ブースに同時に4つのプログラムを流すことができる。録音編集機にはセンテンス間に繰り返しのための Pause を自動的に設定できるポーズマシンが取り付けられており、その外にテープレコーダー 2、マイク 2、レコード、ラジオ等のミキシング録音も可能である。

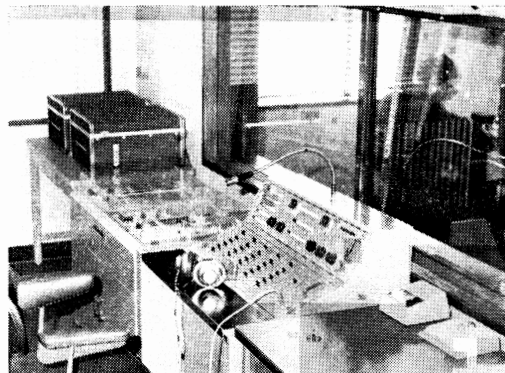
上記のように本館の L.L が完備されたのは本年3月であり、その間資料の蓄積も遅々として進まなかったが、現在国語数にして28ヶ国語、テープ数にして語学用509巻、外に V.O.A. (Voice of America) の Forum Lectures (放送講演集) 308巻を加えれば、テープの総数は817巻になる。各テープにはそれぞれテキ



① 演習室



② ブーステープレコーダー



③ 調整室

ストが付属しており、利用の多い資料についてはテープ、テキストとも複巻、複本を用意している。特に主要国語においては、入門者むきから上級者むきまでの各種のテープを用意してあり、その中にはストーリー、エッセイ、詩の朗読をはじめ名作映画の Sound track から収録したシナリオテープ等も含まれている。L.L の受付カウンターには各テープの内容の簡単な説明を施した冊子目録を用意して希望者に配布している。現在 L.L 専任の掛員は1人であるが、1日の利用者が延70人に達する日もあった本年4月からは、週1日の割合で開架閲覧室の掛員の応援を受けて利用の便を計っている。

L.L の設備が完備された今後の課題は、これまでのように市販資料の蓄積だけでなく、録音編集機を活用して独自のプログラムにもとづく自家生産の教材を作成すること、また本館の L.L に行けば何時でも、いかなる国語においても、その国の Native Speaker の正しい発音を聞く Hearing の練習はもとより Speaking の練習もできるように、国語数を増すとともに資料の充実、サービスの充実に努力していきたいと考えている。

42年度学部別利用数

(開室 237 日)

学 部	文 学	教 育	法 学	経 済	理 学	医 学	薬 学	工 学
利 用 数	384	316	261	282	277	465	13	385
%	6.9	5.7	4.7	5.0	5.0	8.3	0.2	6.9
学 部	農 学	獣 医	教 養	工 教	大 学 院	そ の 他		累 計
利 用 数	352		2,198	26	449	183		5,591
%	6.3		39.3	0.5	8.0	3.3		100%

保存用学内出版物の蒐集状況

学内において発行される出版物をもれなく保存し、将来の利用に備えることは、本館の必須の業務の一つである。このため昨年「北海道大学が発行する出版物等の保存に関する規程」が定められ、昭和42年6月14日から施行されることになった。この規程によれば学内において国費をもって発行された出版物および学生団体の出版物各1部が本館に送付され、本館ではこれらを一般資料と別置して保存することになっている（「楡蔭」Vol. 1, No. 4 参照）。

この規程が施行されてから一年を経過した現在の学内出版物の蒐集状況は下記リストの通りである。これを見れば必ずしも規程の主旨が十分に徹底しているとは思われないので、諸部局の今一層のご協力をお願いしたいと思う。また学生団体の出版物についても学生部の協力のもとに積極的に蒐集に努める予定である。

本館では送付されてきたこれらの出版物を、北方資料室（5階西面）内の「大学資料コーナー」に別置しているので、閲覧希望の方は北方資料室へお申し出下さい。

保存用学内出版物リスト 第1園 (昭42. 6~43. 6)

——但し本館へ送付分のみ——

文 学 部	北海道大学文学部紀要	16の1~2
(北方文化研究施設)	北方文化研究	第3号
	北海道稚内市声問遺跡調査概要	
	北海道稚内市宗谷村オンコロマナイ B (清浜) 遺跡第二次調査概要	
	北海道枝幸郡枝幸町目梨泊遺跡調査概要	
	北海道紋別郡湧別町湧別遺跡調査概要	

教育学部	北海道大学教育学部紀要	第14-15号
(産業教育計画研究施設)	北海道大学教育学部産業教育計画研究施設研究報告書	8
法学部	北大法学論集	第18卷1-4号
(スラブ研究施設)	スラブ研究	12号
経済学部	経済学研究	第17卷1-4号
	北大経済	創刊号
理学部	北海道大学地球物理学研究報告	第18-19号
	Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University. Series 7 (Geophysics).	Vol. 3, No. 1
	Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University. Ser. VI: Zoology.	Vol. 16, No. 2
	Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University. Series 4: Geology and Mineralogy.	Vol. 13, No. 4 Vol. 14, No. 1
医学部	北海道医学雑誌	第41卷9-12号 第42卷1-3号
	Hokkaido University Medical Library Series. Vol. 1	
工学部	「地域と交通」資料	第5-15集
	同窓会会員名簿 昭和41年10月現在	
	同窓会会員名簿 昭和42年10月現在	
	Bulletin of the Fac. of Engineering, Hokkaido University.	No. 43-47
農学部	北海道大学農経論叢	第24冊
	北海道大学農学部邦文紀要	第6巻第3号
	Insecta Matsumurana; Journal of the Faculty of Agriculture, Hokkaido University. Series Entomology,	Vol. 29, No. 2; Vol. 30, No. 1
	Insecta Matsumurana.	Suppl. 1-4.
	Journal of the Faculty of Agriculture, Hokkaido University.	Vol. 55, Pt. 3-4
	札幌同窓会誌	第1-2号
	同窓会会員名簿 昭和42年12月現在	
	新着図書月報	No. 34-35
(演習林)	北海道大学農学部演習林研究報告	第25巻第1号
獣医学部	The Japanese Journal of Veterinary Research.	Vol. 15, No. 1-3
	Faculty of veterinary medicine.	
教養部	北海道大学外国語・外国文学研究	15
	機関研究報告資料	第2輯, 第4輯 [I]-[II]
低温科学研究所	低温科学 生物篇	第25輯
	低温科学 物理篇	第25輯
	Contributions from the institute of low Temperature Science. Series B.	No. 15
	Physics of snow and ice (Proc. Int. conf. on Low Temperature Sci.)	Vol. I, Pt. 1-2; Vol. II
応用電気研究所	応用電気研究所報告	第19巻1-4号
	Monograph Series of the Research Institute of Applied Electricity.	No. 16
	Symposium proceedings, [held on 8-9 [Dec., 1966. Part. 1	
触媒研究所	Journal of the Research Institute for Catalysis, Hokkaido University.	Vol. 14, No. 3, Vol. 15, No. 1-3

結核研究所 事務局	結核の研究 北大時報 (No. 160-169) 学位論文内容及び審査の要旨 (昭和42年3月, 6月, 9月, 12月) 北海道大学一覽 (昭和41年度 42年度) 北海道大学概要 (昭和42年度) Hokkaido University 1967/1968 北海道大学例規集 北海道大学例規集追録 1-3 記念祝典報告 ~創基九十周年~	第27~28集
学 生 部	学寮問題に関する揭示集 北海道大学学寮規則について 就職およびアルバイトあつ旋状況報告書	
体 育 団 体		
(山 岳 会)	北大山岳会々報	第13号
(馬 術 部)	北海道大学馬術部三十年史	
(ス ケ ー ト 部)	ゆ ひ よ う	No. 11-12
文 化 団 体		
(美 術 部)	黒百合会 ~六十周年記念~	
(自然保護研究会)	自然保護研究	第2号
属 附 図 書 館	北海道大学附属図書館〔本館〕収書通報 楡 蔭	No. 2-4 1巻1-6号, 2巻1-2号

本学教官が出版した著作物 (単行本) 第2回

水 産 学 部		年), 法律学全集 52 卷 (独占禁止法) (昭和 36 年), 条解事業社団体法 (昭和 25 年), 私約独占禁止法の研究~その背景と動態 (昭和 31 年), 損失補償制度の研究 (昭和 39 年)
小林新二郎 真珠の研究 (昭和 35 年)		今村成和・小山 昇 法学 (昭和 40 年)
小林 喜雄 随筆北海道の淡水魚 (昭和 42 年)		小山 昇 法律学全集 38 卷 (調停法, 仲裁法) (昭和 33 年)
谷川英一・田村 正・金森政治・新川伝助		三ヵ月章・染野善信・内務俊昌・小山 昇・田中英夫・中野貞一郎 各国弁護士制度の研究 (昭和 40 年)
水産学全集 (25) 水産学通論 (昭和 41 年)		小山 昇 民事調停法概説 (昭和 28 年), 総合判例研究双書 (民事訴訟法 (4) (訴訟物)) (昭和 37 年), 訴訟物論集 (北大法学部双書 (2)) (昭和 41 年)
日向 政明 航海計器教科書上・下 (昭和 25 年)		
法 学 部		
遠藤 博也 行政行為の無効と取消 (昭和 43 年)		
深瀬 忠一 恵庭裁判における平和憲法の弁証 (昭和 42 年)		
小山 昇 現代法律学全集 22 卷 (民事訴訟法) (昭和 43 年)		
今村 成和 法律学全集 9 卷 (国家補償法) (昭和 32		

第 12 回 (昭和 43 年度) 道地区大学図書館職員研究集会

標記会議が来る 8 月 9 日 (金) 本館が当番館として, 本学法学部講義室を会場に開催されます。

北海道大学附属図書館報 「楡蔭」 Vol. 2, No. 4 (通巻 10 号)

1968 年 7 月 30 日 発行 発行人 斉 木 一 郎

発行所 北海道大学附属図書館 札幌市北 8 条西 5 丁目 電話代表 71-2111 (2966)

印刷所 文 栄 堂 印 刷 所 札幌市北 3 条東 7 丁目 電話 23-5560